

KANSAI

住環 デザイン レビュー 2018

集まる、始まる。
住まう、

タイムテーブル

13:00	趣旨説明・講評者紹介
13:10	摂南大学 学生 作品発表 4名
14:15	奈良女子大学 学生 作品発表 2名
14:50 15:00	休憩 10分
15:00	京都府立大学 学生 作品発表 2名
15:35	大阪市大学 学生 作品発表 2名
16:10	帝塚山大学 学生 作品発表 2名
17:00	総評
17:20 17:30	閉会挨拶・記念撮影
17:30 19:30	懇親会

第2回 関西 住環境系学科合同講評会 2018

奈良女子大学 × 摂南大学 × 京都府立大学 × 大阪市立大学 × 帝塚山大学

観覧料 無料(入退場自由)

*合同講評会後の懇親会には、自由にご参加いただけます(参加費 ¥1,000)

主催 関西 住環境系学科合同講評会 実行委員会、学生委員会

後援 建築資料研究社 日建学院

お問い合わせ TEL 075-503-5424 (京都府立大学:河合)
https://kansaijukankyo.wixsite.com/designreview



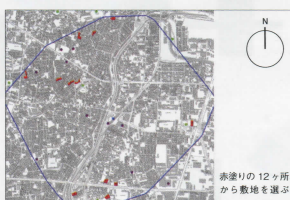
第2回 関西 住環境系学科合同講評会 2018

住環境系学科の設計演習では、これまでの歴史や現代社会の抱える課題を踏まえ、「人々が豊かな生活を実現するためにはどのようなプログラムが必要か」ということが議論の中心となる。しかしながら、日本独特の工学的建築の枠に縛られているためか、このような「住環境」独自の総合的な視点による計画・設計教育ができていたとは言い難い。時代の要請に応える新しい住環境教育を、次世代の担い手である学生と共に考えることが求められている。そこでこの住環境系学科合同講評会は、学生が作品発表を通して互いに刺激し合い自己研鑽に励む場であると共に、教員が時代の要請に応える新しい住環境教育の構築に向けて計画・設計教育方法を検討する場となっている。

各大学の設計課題概要

摂南大学 住環境デザイン学科

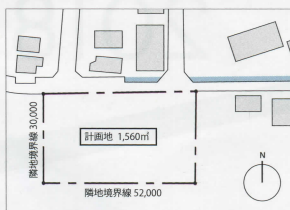
子ども食堂を併設した共同住宅の計画



子ども食堂を併設した共同住宅(賃貸)を設計する。ミニ開発、文化住宅、商店街、小規模工場、生産緑地など様々な土地利用が混在する寝屋川市を対象として、GISを用いて地域環境分析を行い相応しい敷地を各自が選定する。多様化する家族の姿を捉えつつ、「子ども食堂の利用者+共同住宅の入居者+地域住民」の3者の現代的な関わり方をプログラムし、空間化することを求めた。

奈良女子大学 住環境学科

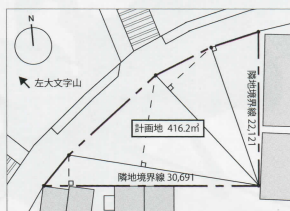
市街地の緑の集合住宅



奈良盆地には市街地と田園が共存している。しかし田園、すなわち生産緑地とそれに携わる人々の住まいがバランスの取れた景観をつくっていた時代は過去のものである。現在の市街地は田園地帯に伸張し、しばしば唐突な状態でストップし、不思議な都市のエッジを形成している。この課題はそうした場所を敷地を選び、小さな集合住宅を設計することにする。市街地と田園が接する場所の景観的可能性についても考えてみてほしい。

京都府立大学 環境デザイン学科

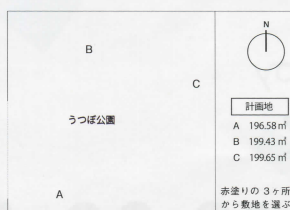
左大文字山を望む集合住宅



京都市街地において、左大文字山の麓、北大路通と西大路通の交差点に位置する場所に現代、そして未来のための新しい集合住宅を設計する。この場所は低層と中高層、伝統的建築と近代的建築の境界でもある。この場所との関係性を組み入れながら、家族の生活の場、都市型集合住宅のコミュニティーも含めてデザインすることが求められる。

大阪市立大学 居住環境学科

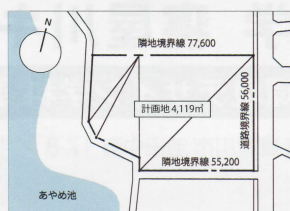
都市に住む



うつば公園を臨む敷地に、都市に開かれた集合住宅を計画する。それは、共有キッチンやライブラリーなど、場所と時間を他者と共有する空間を持つことになるかもしれない。あるいは、住まいと働く場所が一体となることで、住戸が社会に開かれていくことが考えられるかもしれない。また場所の共有だけでなく、周辺の街並みと風景を共有するような建築の建ち方も考えられるだろう。都市の一部として、周囲に寄与する集合住宅を提案してほしい。

帝塚山大学 居住空間デザイン学科

あやめ池のほとりに建つ集合住宅



奈良市内の住宅地に中層集合住宅を設計する。敷地は最寄り駅からほど近いが、西側にはあやめ池を臨む自然豊かな環境に位置する。1階には地域との交流を促す店舗を併設し、住宅部分には住民同士の交流を深めるコミュニケーションの場となるスペースも計画する。また、周辺環境に配慮し、この場でどのような生活・コミュニケーションが育まれるのかをイメージして計画する。